

外国語学部主催，アジア・太平洋研究センター，在日インドネシア学生会名古屋支部共催

第一回インドネシア語スピーチコンテスト

日 時：2008年10月12日（日）

場 所：名古屋キャンパス D棟地下1階 DB1教室



コンテスト参加者



在日本インドネシア大使館
ロニ・P. ユリアントロ公使



インドネシア舞踊

第一回インドネシア語スピーチコンテスト

2008年10月12日に中部地方で初めてのスピーチコンテストを、南山大学名古屋キャンパスを会場として盛大に開催することができた。インドネシア学生会名古屋支部、南山大学アジア・太平洋研究センターと外国語学部が協力して準備を行ない、記念すべき第一回のコンテストを成功裏に実施することができたことは、非常に喜ばしいことであり、関係者は自信をつけることができた。

また、在日本インドネシア大使館の後援をいただき、当日はロニ・P.ユリアントロ公使、エディソン・ムナフ文化担当一等書記官をはじめとして7名が東京から駆けつけて下さった。実施においても資金的な援助をいただき、インドネシア政府のこのイベントに対する思い入れの深さが示された。またインドネシア国立言語センターからは参加者全員に対し辞書が贈呈される旨の連絡があったほか、ガルダ・インドネシア航空からは優勝の副賞としてインドネシア往復航空券の寄付を頂いた。本学からは国際交流担当の木下登副学長と藤本博外国語学部長、アジア学科長でありアジア・太平洋研究センターの小林寧子センター長のご出席を頂いた。

当日は、26名の出場予定者全員が参加し、それぞれ聞きごたえのあるインドネシア語でのスピーチを行なった。出場者は中部地方だけでなく、関西、関東地方からもあり、地域の枠を超えたスピーチコンテストとなった。本学の学生は1年生から4年生までの13名が出場し、優勝と準優勝は逃したが、3年生のアジア学科生が3位を獲得した。東京外国語大学や大阪大学（2007年に大阪外国語大学が統合された）のカリキュラムと比較すると、中国語とインドネシア語の2つの外国語を1年生から同時に教えているアジア学科のインドネシア語教育は授業時間数では両大学に及ばないものの、教育の質の面からは退けをとっていないことを示したとも言えよう。

ロニ会長を筆頭にインドネシア学生会からも、絶大なるご協力を頂いた。特に開会と閉会に際しては、留学生による東ジャワと西スマトラの珍しい踊りをご披露いただき、スピーチコンテストを盛り上げていただいた。会場には100名を越える観客が訪れ（そのうちの半数がインドネシア人）、このイベントに対する地域社会の関心の高さが示された。これほどの数のインドネシア人と日本人が一堂に会する機会は珍しく、貴重な文化交流の場になったと言える。

さらにコンテスト終了後には、インドネシア学生会の奥様の家庭料理（チキンスープ）や揚げバナナなどのスナックが振る舞われ、懇親会は予定の時刻を過ぎて盛り上がった。

この場をお借りして、今回のインドネシア語スピーチコンテストにご支援、ご協力を頂いた各方面の方々に心よりお礼申し上げる。今回の貴重な経験を踏まえ、各方面からの激励のことばを励みに今後も長く継続してこのスピーチコンテストを開催していきたいと考えている。

（文責：外国語学部アジア学科教授 森山幹弘）